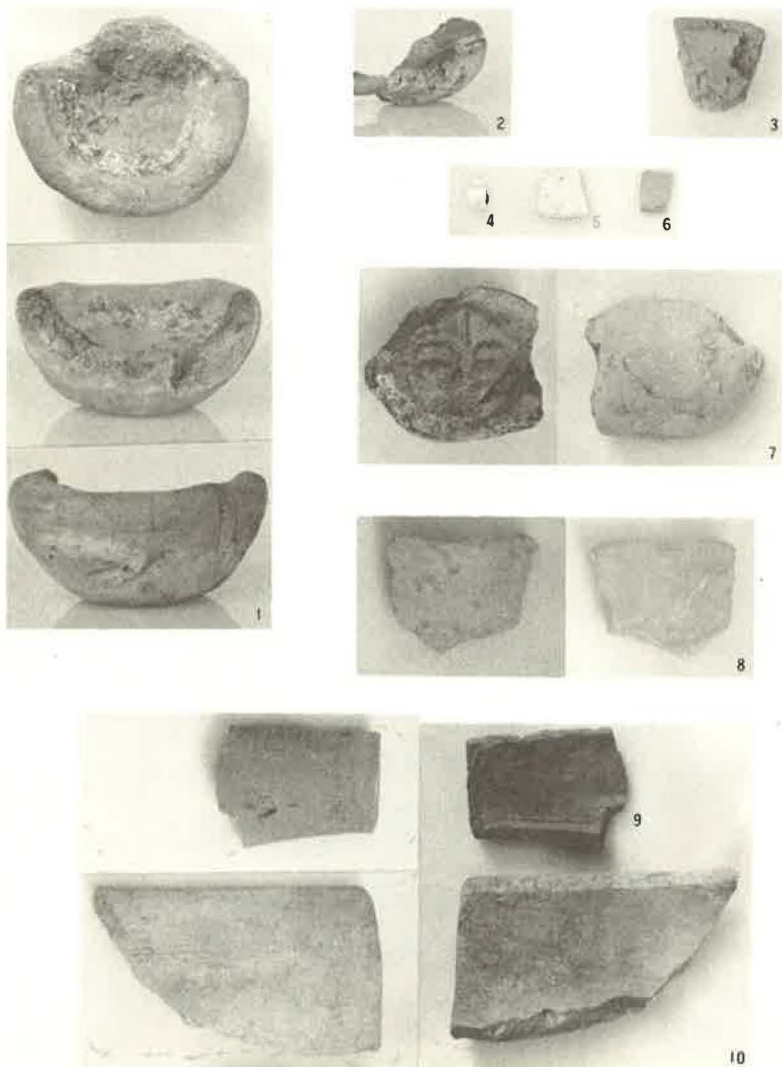


附 清里南部遺跡群Ⅱの遺物について

清里南部遺跡群Ⅱは、土地改良事業に伴う事前発掘調査として、昭和55年2月1日から同年3月10日にかけて実施したものである。道水路部分と水田転換地部分を対象に、その合計面積は約5,000㎡であった。

検出された主な遺構は、土師器を伴う竪穴住居跡(23戸)・溝跡・ピット等であった。いまだこれらの遺構とそれに伴う遺物は未整理の状態にあり、詳細は不明だが、竪穴住居跡は国分期が大部分、溝跡は国分期から中世にかけて、ピットは国分期のものを含むとみられる。

ここでは、伴出遺物および出土状況等については省略せざるを得ないが、遺跡の性格を物語ると思われる遺物の一部を紹介することにする。(なお、下の写真のもの以外に石帯(巡方)も出土した。)



1. 2. 3. るつぼ 7. 鋤型?
4. 5. 6. 緑釉陶器 8. 9. 10. 瓦

